

釧路市地域公共交通活性化協議会及び釧路市地域公共交通会議における 地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

【釧路市地域公共交通活性化協議会】

釧路市では「釧路市立地適正化計画」を平成29年3月に策定し、集約型都市構造への再編を進めており、合わせてコンパクト・プラス・ネットワークを支える公共交通網の形成に向け、平成29年6月に「釧路市地域公共交通網形成計画」を策定し、利用者にわかりやすく利便性の高い幹線軸と域内交通(支線)の乗り換えを基本としたバス路線網の再編事業を位置付け、「釧路市地域公共交通再編実地計画」を令和元年9月に策定し、国土交通大臣の認定を受けた。

再編実施計画においては、釧路駅及び各拠点間を結ぶ路線バスを幹線軸とし、時間帯に応じて各拠点同士または各拠点から居住地区等を結ぶ路線バス、乗合タクシーを支線として位置付け、相互の乗り換えを可能とした上、利便性と効率性の向上を図っている。

阿寒・音別地域については、域内を運行するデマンド交通を導入し、山花リフレや阿寒町行政センター、音別駅を核として幹線軸への接続性を確保し、交通不便地域の改善を図っている。

こうした取組により、市内の面的な公共交通ネットワークを構築し、公共交通の持続的確保と、高齢者をはじめとした住民が安心して移動できる環境を確保することが必要である。

【釧路市地域公共交通会議】

阿寒町布伏内地区における公共交通は、長い間、民間の路線バスにより釧路市の支援を受けながら何とか維持されてきたが、近年の人口減少や高齢化に伴う利用者の減少により、赤字額が年々膨らむ状態が続いていた。

こうした問題の解消を図るため、「地域公共交通活性化及び再生に関する法律」に基づき、平成21年2月に「釧路市地域公共交通総合連携計画」を策定し、バス乗車率の低い区間に対する恒常的な公共交通体系を構築するため、デマンド型乗合タクシーを「地域内フィーダー系統」として位置付け、公共交通ネットワークを構築することとした。

「地域内フィーダー系統」は過疎化が進む同地区における公共交通への接続として、阿寒診療所や釧路地区の総合病院への移動手段とするなど、高齢者をはじめとした約80名の住民が安心して移動できる環境を確保することを目的としている。

地域公共交通の現況

【釧路市地域公共交通活性化協議会】

- ・JR根室本線(釧路駅、東釧路駅、新大楽毛駅、大楽毛駅)、JR釧網本線(東釧路駅)
- ・くしろバス(株)(市内24路線)
- ・阿寒バス(株)(市内15路線)
- ・デマンド型乗合タクシー(3路線)
- ・自家用有償旅客運送(2路線)
- ・タクシー(法人5社・個人47社)

【釧路市地域公共交通会議】

- 路線バス(3系統)・・・阿寒バス(株)
 - ・阿寒線(地域間幹線系統)
 - ・阿寒本町線 山花経由(市町村生活バス路線)
 - ・阿寒本町線 大楽毛経由(釧路市単独補助路線)
- スクールバス(4系統)・・・釧路市運行
- 患者等輸送バス・・・釧路市運行
 - ・3地区に分け各地区週1回、特別養護老人ホームや歯科医院を經由し阿寒診療所までを往復運行(無料)

生活交通確保維持改善計画の目標

【釧路市地域公共交通活性化協議会】

(イオン高専線、イオン鶴野線、イオンリフレ線(鶴野経由)、イオンリフレ線(大楽毛経由))

- ・収支率を50%以上とする
- (仁々志別線、音別線(霧里・茶安別)、音別線(尺別・直別))
- ・運行経路や行き先に対する満足度を16.1%以上とする

【釧路市地域公共交通会議】

阿寒町布伏内地区において、将来の更なる高齢化や過疎化を鑑み、デマンド型乗合タクシーを導入することで、阿寒診療所や釧路地区の総合病院等への移動手段の確保など、高齢者を主とした約80名の住民が安心して移動できる環境の持続的確保を目指す。

事業の目標年間利用者数1,700人以上とする。

釧路市地域公共交通活性化協議会及び釧路市地域公共交通会議における 地域公共交通確保維持改善事業の概要

協議会開催状況

【釧路市地域公共交通活性化協議会】

令和元年度

- ・第1回協議会 6月11日(再編実施計画(案)、地域内フィーダー系統確保維持計画の協議・承認)
- ・第2回協議会 9月 3日(地域内フィーダー系統確保維持計画変更の協議・承認)

【釧路市地域公共交通会議】

○令和元年6月12日 第1回会議を開催

【協議事項】

地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請について

○令和2年11月30日(書面協議)

【協議事項】

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和2年度事業概要

【釧路市地域公共交通活性化協議会】

系統名	運行者	運行本数(日)	系統名	運行者	運行本数(デマンド・日) ※土日祝運休
・イオン高専線	阿寒バス株	4本	・仁々志別線	(有)阿寒観光ハイヤー	6本
・イオン鶴野線		平日2本・土日祝1本	・音別線(霧里・茶安別)	釧路市(有)音別ハイヤー委託)	6本
・イオンリフレ線(鶴野経由)		1本	・音別線(尺別・直別)		4本
・イオンリフレ線(大楽毛経由)		4本			

【釧路市地域公共交通会議】

過疎化が進む阿寒町布伏内地区において、公共交通の持続的確保を目的に阿寒診療所～布伏内地区～阿寒診療所の区間で、デマンド型乗合タクシーを導入した。運行日数は361日(12月31日～1月3日運休)で、運行回数は平日6便、土日祝日4便としており、市民からの予約を受け、運行する。運賃については、バス乗りつぎありは、一律200円、バス乗りつぎなしは、200円又は500円、定期券については、一般通勤定期券6,000円、高齢者対象定期券1,200円、障がい者、小児(小学生以下)については、普通運賃の半額としている。

令和2年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

【釧路市地域公共交通活性化協議会】

- ・令和元年10月1日より運行開始
(イオン高専線、イオン鶴野線、イオンリフレ線(鶴野経由)、イオンリフレ線(大楽毛経由)、仁々志別線、音別線(霧里・茶安別)、音別線(尺別・直別))
- ・イオン昭和店内にバス待合施設(椅子、カウンター、WiFi、コンセント)を整備
- ・バス待合施設内にバスロケーションシステムと連動したデジタルサイネージを設置し運行情報を発信することで、安心して快適にバスを待てる環境を構築
- ・イオン昭和店内で再編イベントを開催
- ・高齢者向けモビリティマネジメント(※)として、イオン昭和店までのバス乗車体験、バス乗り方教室、店内待合施設等を活用した「かしこいクルマの使い方講座」開催
(※)車の利用に頼る状態から公共交通をかしこく使う方向へと自発的に転換することを促す、コミュニケーションを中心とした交通施策
- ・老人クラブ活動時にデマンド交通の利用方法等について周知、PR

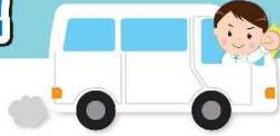
【釧路市地域公共交通会議】

利用者の利便向上のため、PR強化(阿寒地区へのチラシ配布)や利用状況調査を行った。

2) 運行系統

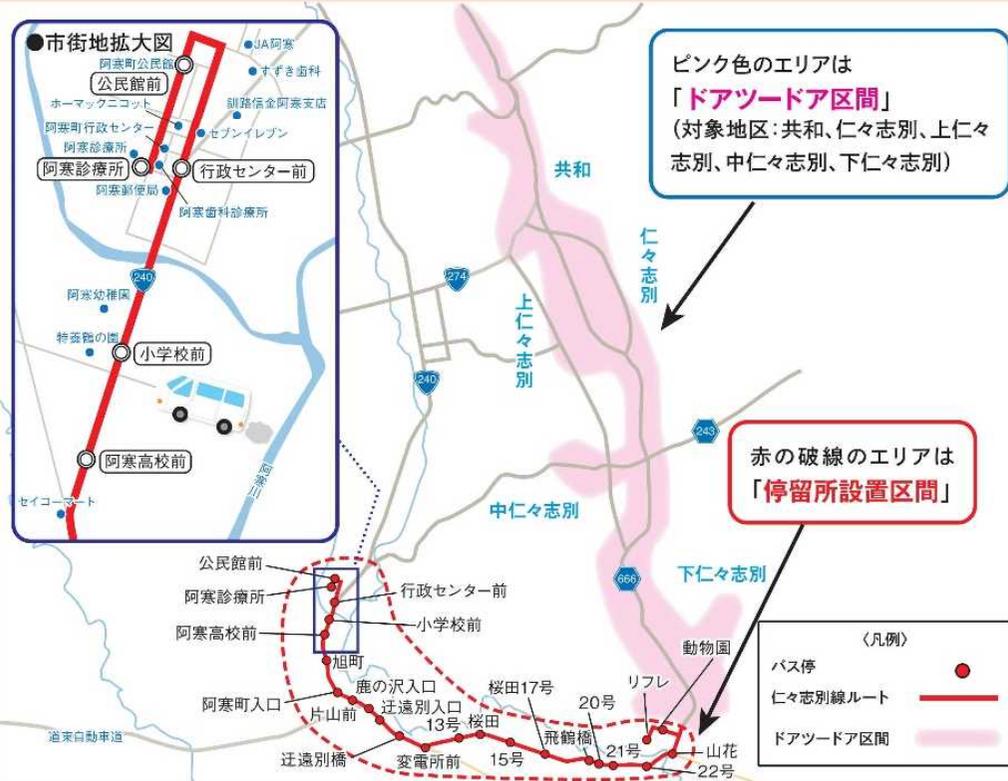


令和元年10月1日(火)から 仁々志別線 あいのりタクシーの 運行をスタートします!



- あいのりタクシーは予約制の乗合タクシーです。
- 通常のバスと同様に停留所で乗降する「停留所設置区間」とご自宅の前で乗降が可能な「ドアツードア区間」(共和～下仁々志別16線)を設定し、共和から阿寒診療所までの間を運行します。

◆運行地域と乗降場所



令和元年10月1日(火)から 音別地区 コミュニティバスの 運行をスタートします!

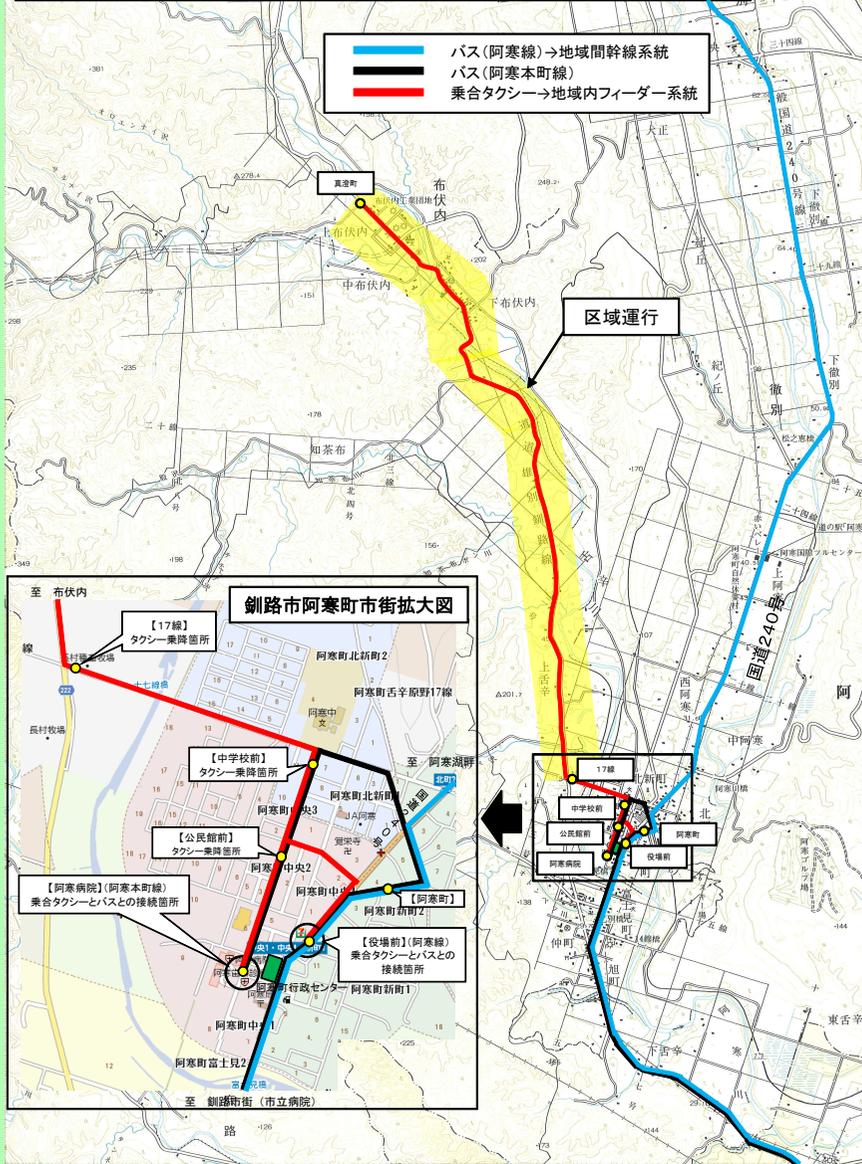


- 「チャンベツ・ムリ線」(1日3往復)、「直別・尺別線」(1日2往復)の2系統運行します。
- 乗車には、事前予約が必要です。(裏面の運行ダイヤのうち、予約のあった便のみ運行します)
- 乗車区間は、通常のバスと同様に停留所で乗降する「停留所設置区間」とご自宅の玄関先など自由な乗降が可能な「ドアツードア区間」を設定します。

※音別地区コミュニティバスの運行に伴い、音別診療所の患者輸送バスは9月30日で廃止します。(このコミュニティバスは音別診療所受診のために乗降する場合は無料です。)



釧路市地域内フィーダー系統(デマンド型)布伏内線乗合タクシー営業区域図



布伏内線 のりあいタクシー

阿寒本町線とのりあいタクシー運行時刻変更(平成25年12月1日～)

《平日》

釧路市街方面からのバス			のりあいタクシー			釧路市街方面へのバス		
バス路線名	市立病院前発	阿寒病院着	阿寒病院発	布伏内地区着	阿寒病院着	バス路線名	阿寒病院発	市立病院前着
-	-	-	接続なし			阿寒本町線 (山花経由)	6:51	8:15
-	-	-	6:27	1便 6:42	6:57 接続	阿寒本町線 (大森毛経由)	7:00	8:16
阿寒本町線 (大森毛経由)	7:05	8:20	接続なし			-	-	-
-	-	-	8:00	2便 8:15	8:30 接続	阿寒本町線 (山花経由)	8:36	9:52
-	-	-	14:40	3便 14:55	15:10 接続	阿寒本町線 (山花経由)	15:41	16:57
阿寒本町線 (山花経由)	13:50	15:10 接続	15:10	4便 15:25	15:40	-	-	-
-	-	-	接続なし			阿寒本町線 (大森毛経由)	18:10	19:16
阿寒本町線 (大森毛経由)	16:00	17:15 接続	17:15	5便 17:30	17:45	-	-	-
-	-	-	接続なし			阿寒本町線 (大森毛経由)	19:31	20:37
阿寒本町線 (山花経由)	18:00	19:20 接続	19:20	6便 19:35	19:50	-	-	-

《土日祝日》

釧路市街方面からのバス			のりあいタクシー			釧路市街方面へのバス		
バス路線名	市立病院前発	阿寒病院着	阿寒病院発	布伏内地区着	阿寒病院着	バス路線名	阿寒病院発	市立病院前着
-	-	-	7:48	7便 8:03	8:18 接続	阿寒線	8:20 (役場前発)	9:35 (釧路駅前着)
-	-	-	14:40	3便 14:55	15:10 接続	阿寒本町線 (山花経由)	15:41	16:57
-	-	-	接続なし			阿寒本町線 (大森毛経由)	18:10	19:16
阿寒本町線 (山花経由)	13:50	15:10 接続	15:10	4便 15:25	15:40	-	-	-
阿寒本町線 (大森毛経由)	16:00	17:15 接続	17:15	5便 17:30	17:45	-	-	-

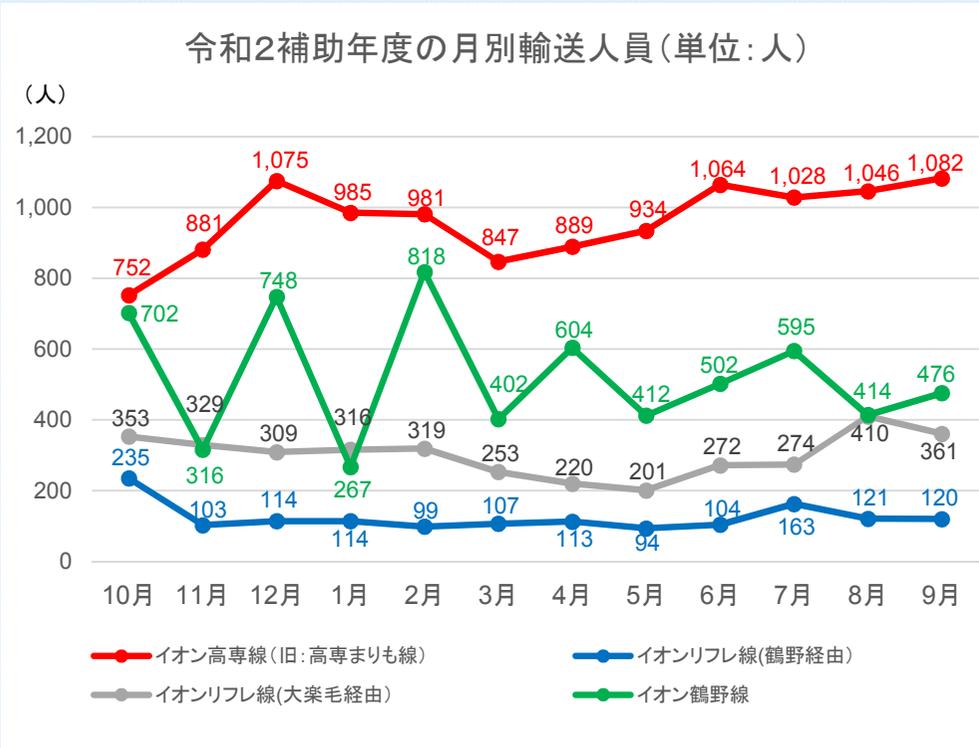
《のりあいタクシーは事前の予約が必要です》

阿寒観光ハイヤー ☎66-3221

3) 利用実績 4) 収入実績

① 阿寒バス利用実績

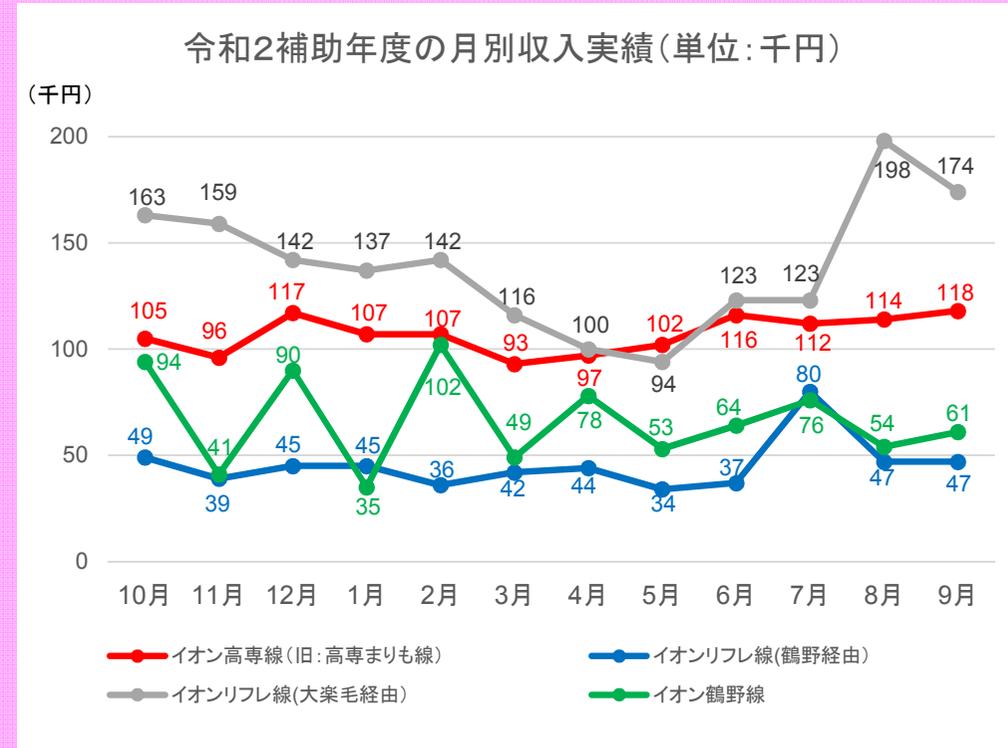
◆令和2補助年度(R1.10~R2.9)の月別輸送人員
(フィーダー系統を含む路線全体)



	イオン高専線 (旧:高専まリモ線)	イオンリフレ線 (鶴野経由)	イオンリフレ線 (大楽毛経由)	イオン鶴野線
年間輸送人員	11,564	1,487	3,617	6,256
月平均	964	124	301	521

② 阿寒バス収入実績

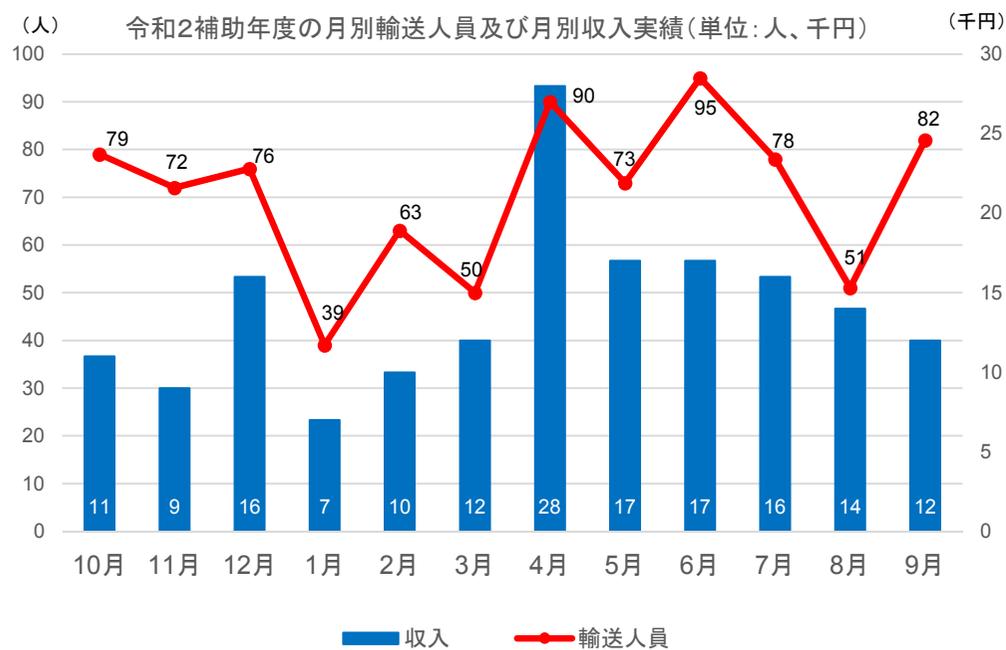
◆令和2補助年度(R1.10~R2.9)の月別収入実績
(フィーダー系統を含む路線全体)



	イオン高専線 (旧:高専まリモ線)	イオンリフレ線 (鶴野経由)	イオンリフレ線 (大楽毛経由)	イオン鶴野線
年間収入	1,278	538	1,665	792
月平均	107	45	139	66
収支率	25.90%	27.92%	13.60%	58.67%

③ 仁々志別線利用・収入実績

◆令和2補助年度(R1.10~R2.9)の月別輸送人員 及び月別収入実績

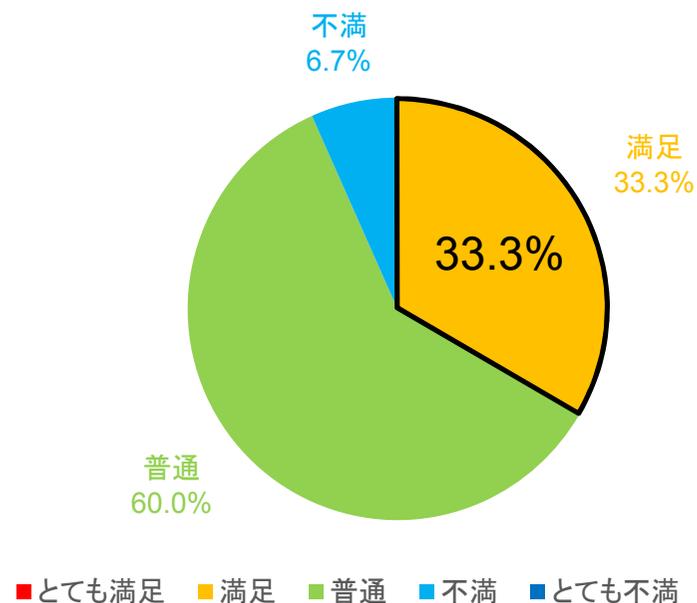


	仁々志別線
年間輸送人員	848
月平均	71
年間収入	163
月平均	14

④ 仁々志別線アンケート結果

◆令和2補助年度(R1.10~R2.9)のアンケート結果

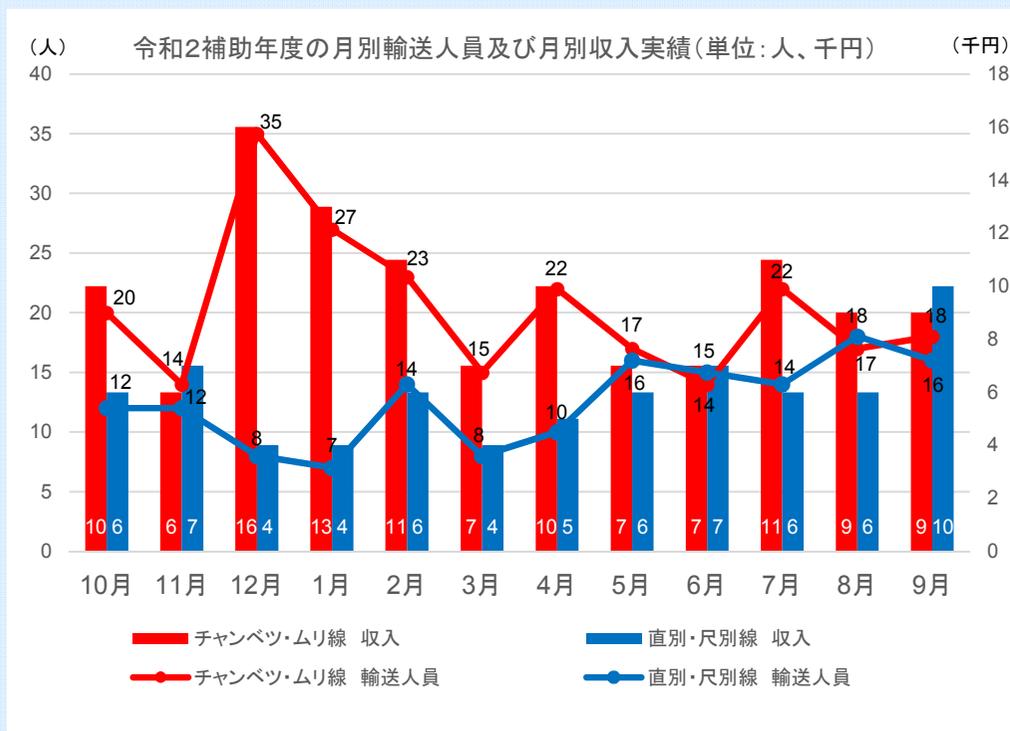
乗合タクシーの運行経路や行き先に対する満足度



	とても満足	満足	普通	不満	とても不満
運行経路や行き先 (N=15人)	0人	5人	9人	1人	0人

⑤ 音別線利用・収入実績

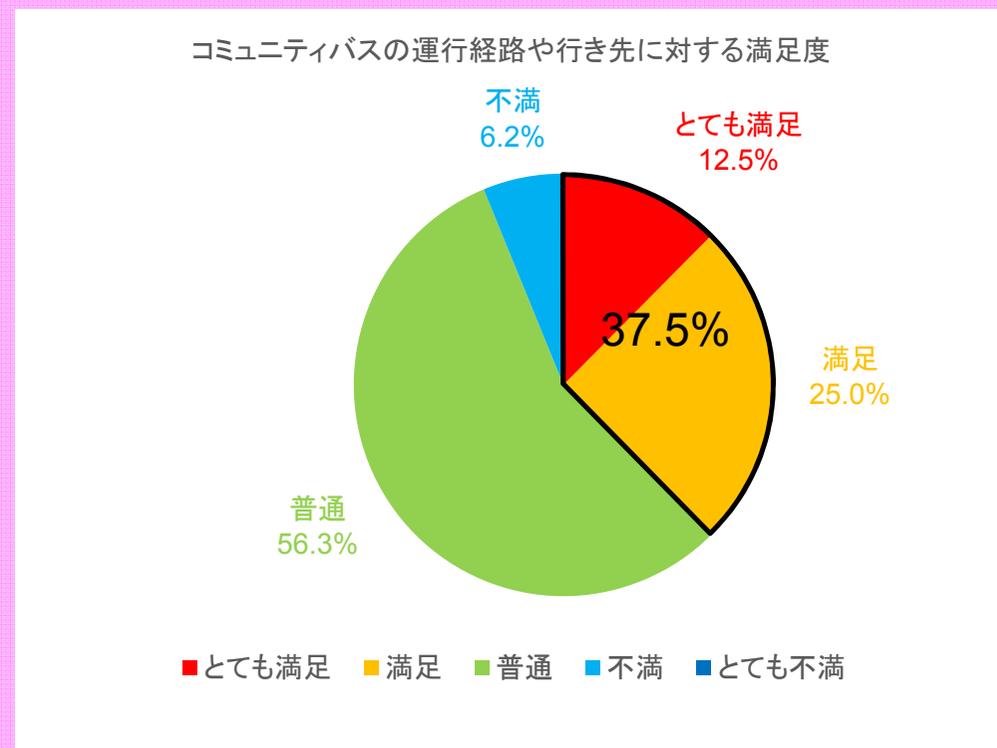
◆令和2補助年度(R1.10～R2.9)の月別輸送人員 及び月別収入実績



	チャンベツ・ムリ線	直別・尺別線
年間輸送人員	244	150
月平均	20	13
年間収入	119	67
月平均	10	6

⑥ 音別線アンケート結果

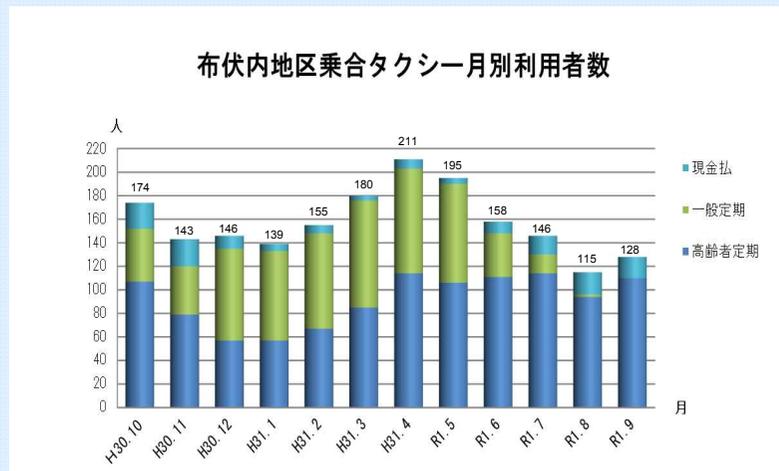
◆令和2補助年度(R1.10～R2.9)のアンケート結果



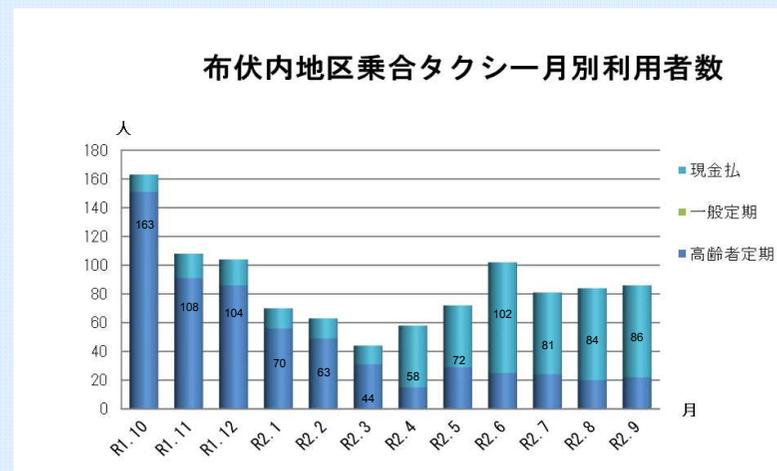
	とても満足	満足	普通	不満	とても不満
運行経路や行き先 (N=16人)	2人	4人	9人	1人	0人

⑦布伏内地区乗合タクシー利用実績

平成30年10月～令和元年9月



令和元年10月～令和2年9月

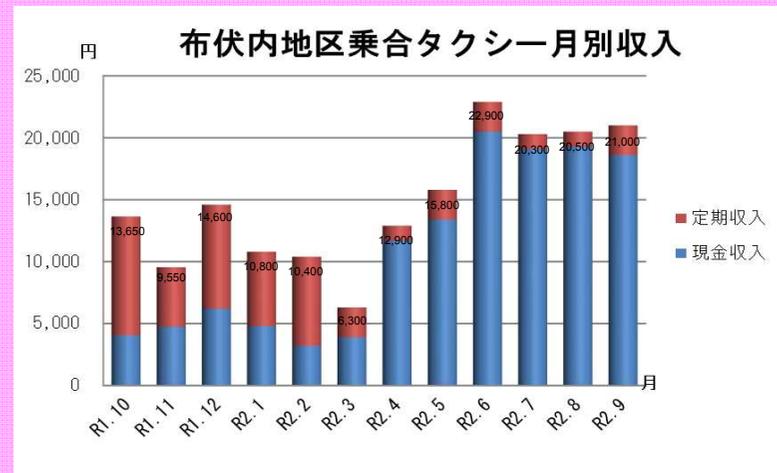


⑧布伏内地区乗合タクシー収入実績

平成30年10月～令和元年9月



令和元年10月～令和2年9月



5) 事業実施の適切性

【釧路市地域公共交通活性化協議会】

計画通り事業は適切に実施された。

【釧路市地域公共交通会議】

計画どおり事業は適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

【釧路市地域公共交通活性化協議会】

○収支率

(イオン高専線、イオン鶴野線、イオンリフレ線(鶴野経由)、イオンリフレ線(大楽毛経由))

⇒コロナ禍により利用者が減少したこともあり、収支率が目標に及ばなかったものの、運休や遅延等の利便性の低下要素も少なく、効率的で安定した運行といった路線再編の効果があつた。

目標値(R2): 50%

実績値(R2): 31.5%(4路線平均)

○運行経路や行き先に対する満足度

(仁々志別線、音別線(霧里・茶安別)、音別線(尺別・直別))

⇒アンケート結果により、目標の数値を上回つた。

目標値(R2): 16.1%以上

実績値(R2): 仁々志別線33.3% 音別線37.5%

【釧路市地域公共交通会議】

○年間利用者数

目標1,700人以上/年に対して、1,035人/年であつた。

7) 事業の今後の改善点

【釧路市地域公共交通活性化協議会】

- ・商業施設等と連携した周知、PRを強化する。
- ・町内会や老人クラブと連携した周知、PRを強化する。
- ・高齢者向けモビリティマネジメントを効果的に引き続き実施する。
- ・まちづくりや利用実態と連動した運行内容とする。

【釧路市地域公共交通会議】

同地区においては、人口減少による過疎化が進行するなかで、高齢者の多い地区(高齢化率 68%)であることから、大幅な利用者数の増加が見込めない状況となっている。

また、新型コロナウイルスによる外出自粛などの影響もあり、年間利用者も大幅に減少してしまった。

このような中でも、チラシを配布し住民周知や、利便性向上を目指すための利用状況調査を行い、引き続き、利用者増につながるよう様々な取組を積極的に進めていき、利用者回復及び増加に努めていく。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、一部目標を達成することができなかったが、地域公共交通網形成計画に基づき、バスの待合施設の整備や、バスロケーションシステムと連動したデジタルサイネージの設置等の利便性向上につながる取り組みを行っており、引き続き利用促進の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。